

4 - 6 伊豆半島東部の地殻変動

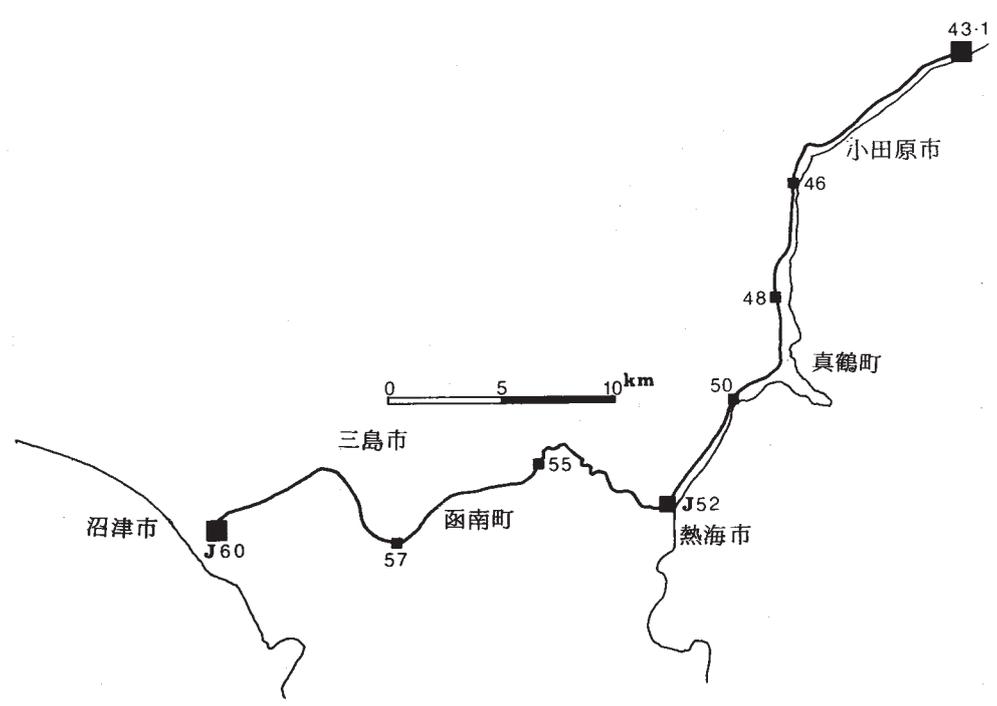
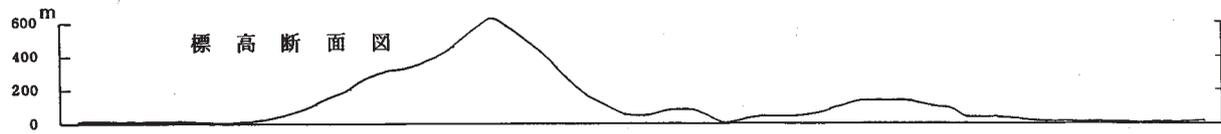
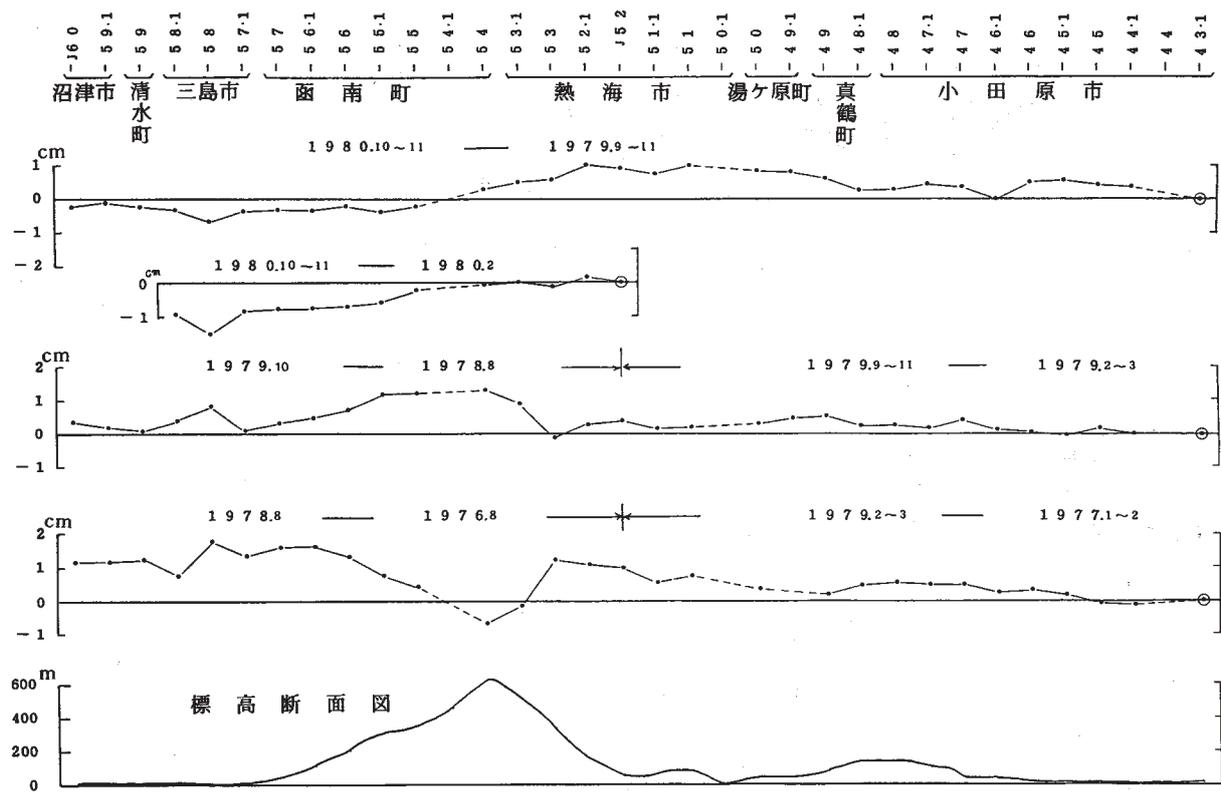
Crustal Movement in the Eastern Part of Izu Peninsula

国土地理院地殻調査部

Crustal Dynamics Department, Geographical Survey Institute

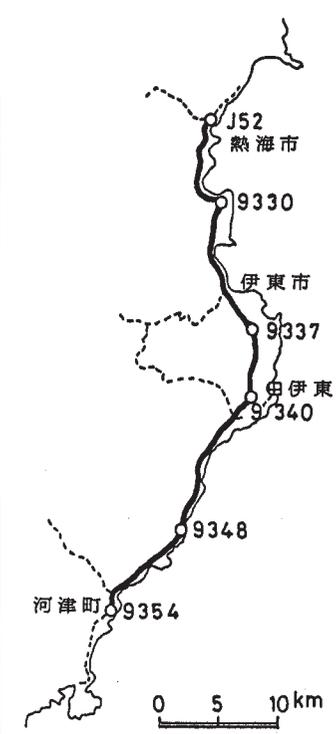
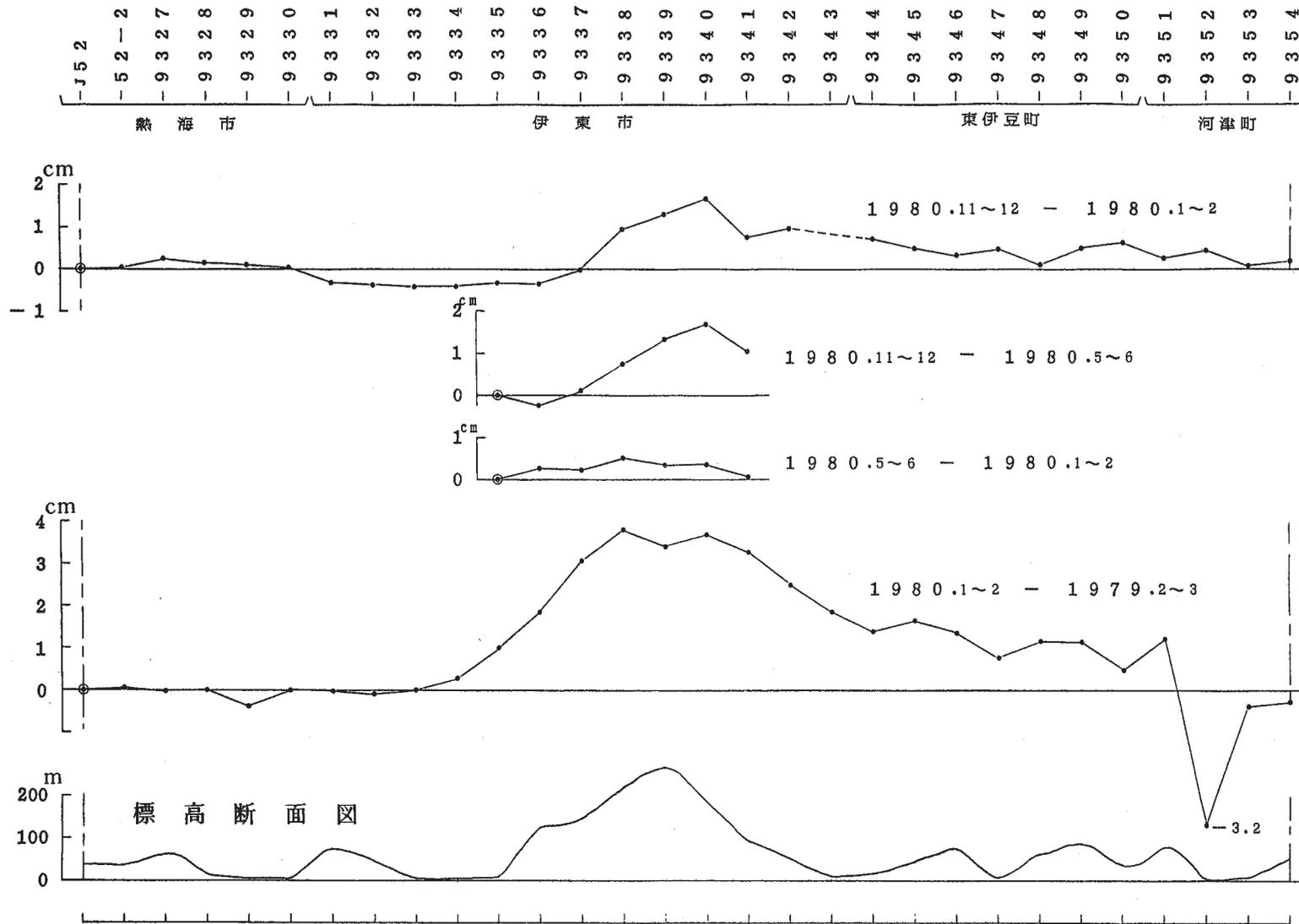
1980年10月～11月熱海経由の沼津－小田原間で水準測量を実施した。最近1年間の上下変動を第1図に示す。沼津を基準にすると熱海市付近に若干隆起の傾向があらわれているが一般的に大きな変動は認められない。第2図に伊東市経由熱海－河津間の伊豆半島東岸の上下変動を示す。第3図に内浦検潮所から中伊豆町経由の伊東験潮場までの上下変動を示す。伊東験潮場及び水準点No.9340付近を中心とする地域は1978年後半から1979年前半にかけて異常に隆起した地域であるが、1980年に実施された3回的水準測量結果によるといったんほぼ停止した隆起が1980年後半になって再び隆起傾向に転じている。この期間内には1980年伊豆半島東方沖地震が発生しており、この地震に伴う一時的な隆起現象かどうか今後の測量結果が注目される。参考として、第4図に伊東、内浦両験潮場の潮位差、第5図に伊東、油壺両験潮場の潮位差をそれぞれ示す。第6図に中伊豆－伊東間の上下変動を示す。この路線においては殆んど変動が認められない。

第7図に網代・川奈地区の水準測量結果を示す。網代ではやや西上り東下り、川奈では、南上り北下りの傾向が若干あらわれている。同地区の精密変歪測量の結果を第8図に示す。

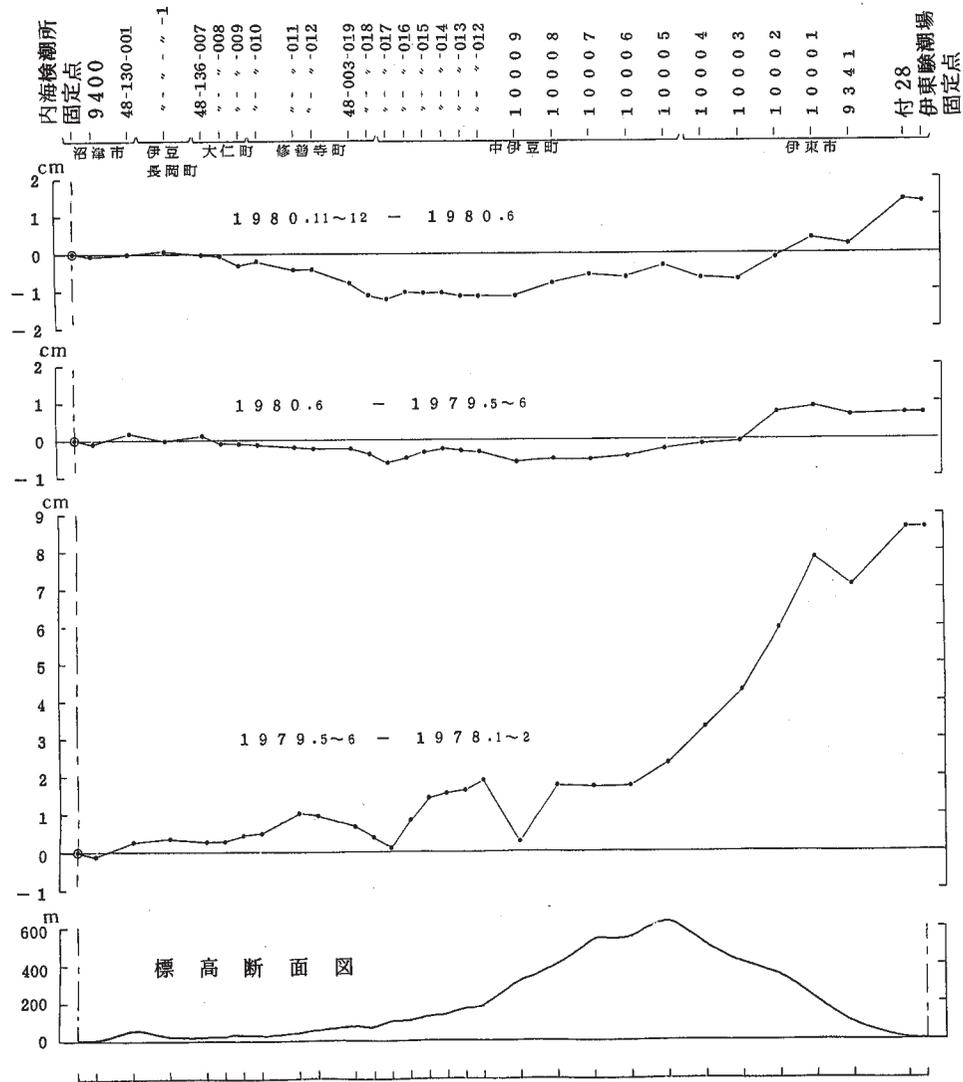


第1図 沼津～熱海～小田原間の上下変動グラフ

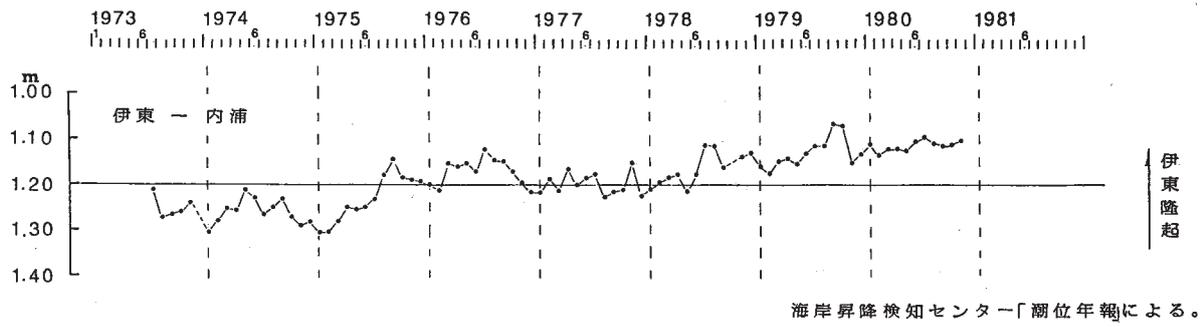
Fig. 1 Vertical movement between Numazu and Odawara via Atami.



第2図 熱海～伊東～河津間の上下変動グラフ
 Fig. 2 Vertical movement between Atami and Kawazu via Ito.

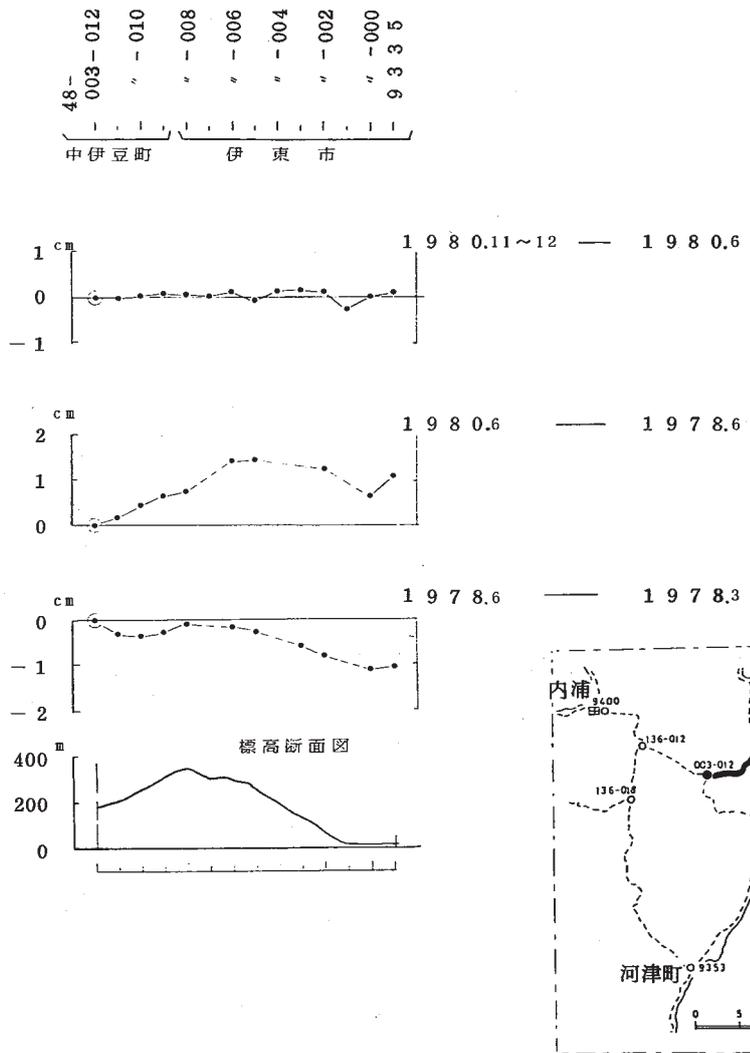
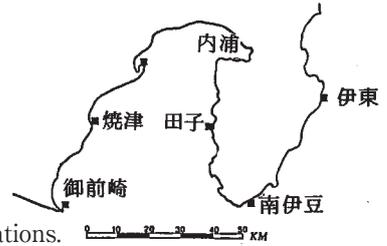


第3図 内浦～修善寺～中伊豆～伊東験潮場間の上下変動グラフ
 Fig. 3 Vertical movement between Uchiura and Ito tidal stations via Shuzenji and Nakaizu.



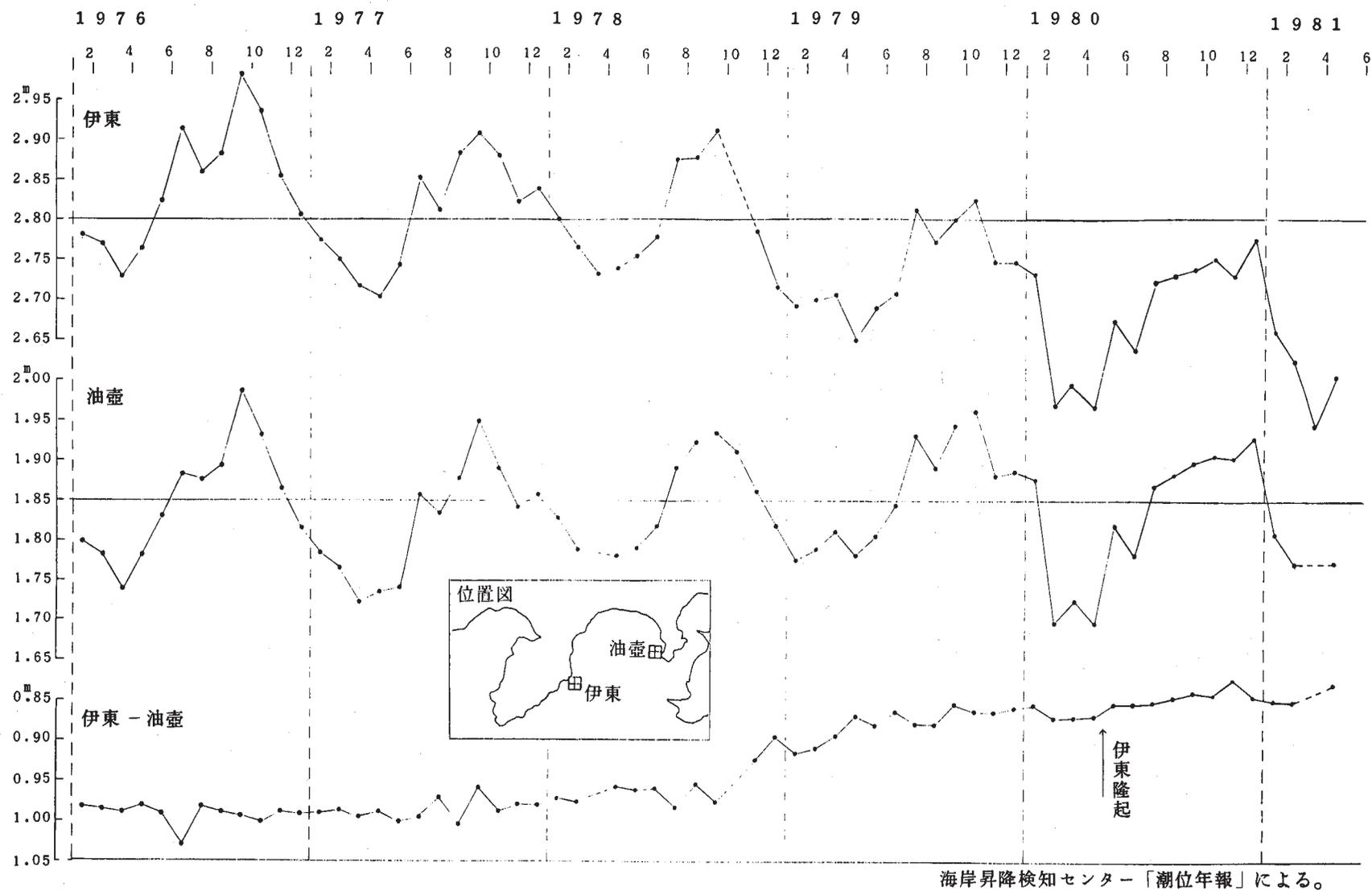
第4図 伊東・内浦験潮場間の月平均潮位差

Fig. 4 Difference of monthly mean sea level between Ito and Uchiura tidal stations.



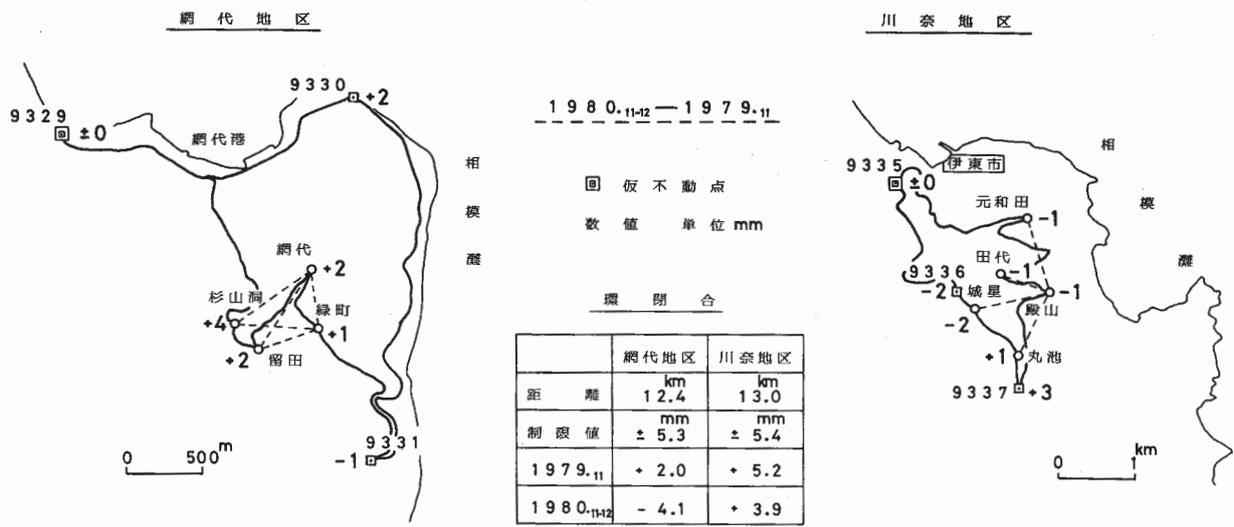
第5図 中伊豆～伊東間の上下変動グラフ

Fig. 5 Vertical movement between Nakaizu and Ito.



第6図 伊東・油壺験潮場の月平均潮位及び潮位差

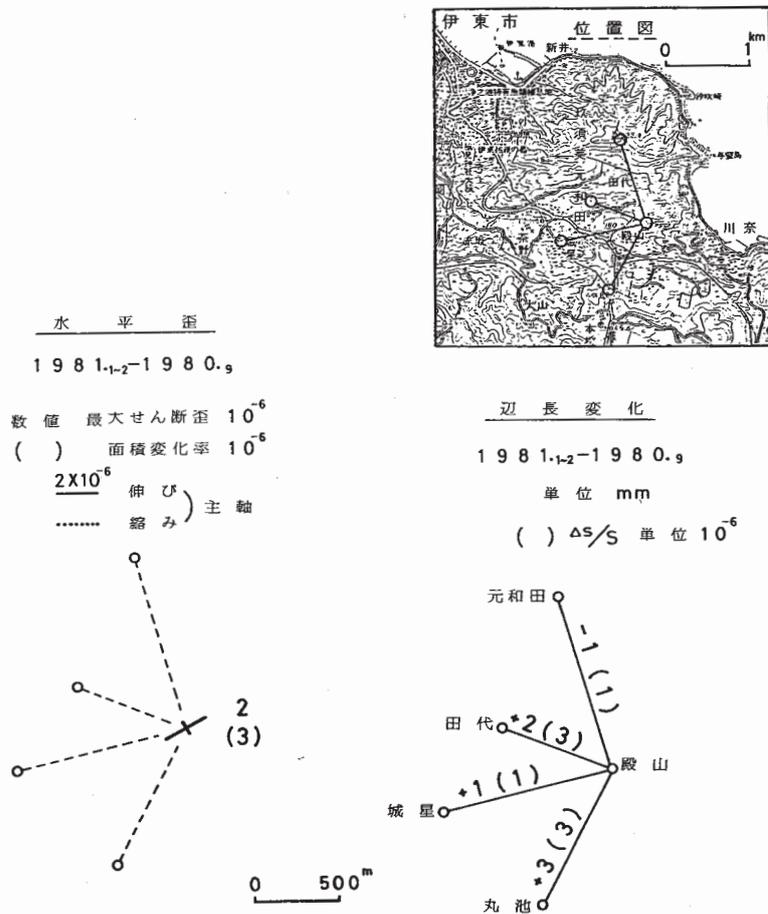
Fig. 6 Difference of monthly mean sea level between Ito and Aburatsubo tidal stations.



第7図 網代・川奈地区水準測量結果

Fig. 7 Leveling surveys in Ajiro and Kawana.

観測年 区間	I	II	III	差	
	1979.9	1980.9	1981.1-2	III - I	III - II
殿山 ~ 元和田	1009.478 ^m	.479 ^m	.478 ^m	0 ^{mm}	- 1 ^{mm}
〃 ~ 田代	667.040	.044	.046	+ 6	+ 2
〃 ~ 城星	1009.702	.710	.711	+ 9	+ 1
〃 ~ 丸池	939.505	.505	.508	+ 3	+ 3



第8図 川奈精密変歪測量結果

Fig. 8 Survey results of precise radial lines in Kawana.